



京都大学とスイス・チューリッヒ大学による Global Entrepreneurship Development Joint Program 設立について

京都大学とチューリッヒ大学（University of Zurich：UZH）は 2026 年、グローバルに活躍できる起業家とスタートアップのリーダーシップチームを共同で育成する「Global Entrepreneurship Development Joint Program」を設立しました。

両大学は、ライフサイエンスおよびディープテック領域において世界トップクラスの研究力を有しています。しかし、科学的卓越性だけではグローバルなベンチャー創出には直結せず、国境や異文化を越えた起業家能力は、従来の学術プログラムでは十分に培われません。そうした課題から、このたび、日本とスイスのイノベーションエコシステムを連結し、共同で人材を育成するための本プログラムを立ち上げました。

本プログラムの概要とコンテンツ、5 か年ロードマップは以下のとおりです。

【目的】

両大学間に持続可能な起業家育成の枠組みを構築して、グローバルに活躍できる起業家とスタートアップのリーダーシップチームを共同で育成し、両国におけるイノベーションに貢献する。

【対象者】

両大学から博士課程大学院生を中心にした若手研究者（各大学 10 名程度）を選抜し、両国混成チームを結成する。

【対象領域】

初期はライフサイエンス（細胞治療、再生医療など）に焦点を充て、中期的には隣接するディープテック領域（医療データサイエンス、AI 駆動型医療）などに拡大予定。

【期待される成果】

- ・研究成果と社会実装の好循環の創出、起業マインドの醸成
- ・再生医療の国際展開への標準化プラットフォームの構築
- ・グローバルスタートアップの創出

【コンテンツ】

両大学においてそれぞれ 10 日間程度の集中プログラムを実施

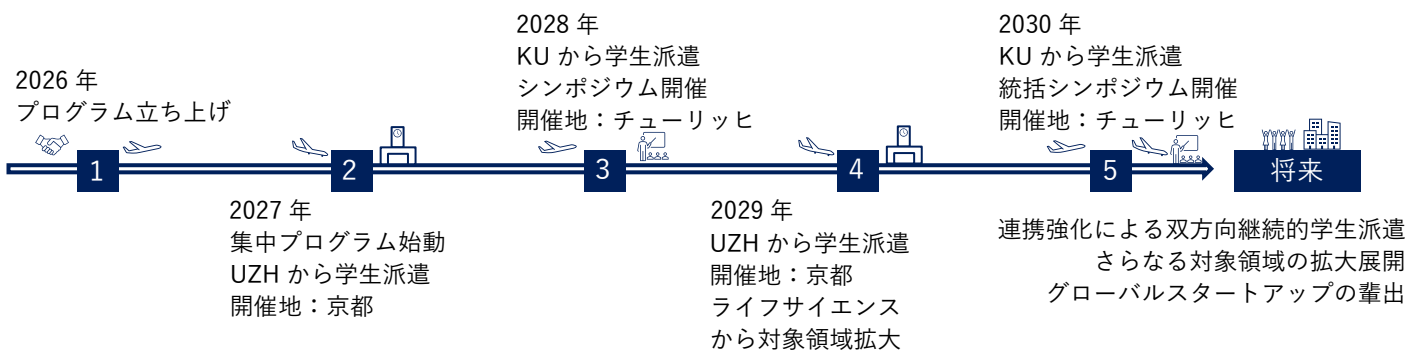
■京都大学側コンテンツ例

- ・イノベーション論・アントレプレナーシップの基礎理論（知財戦略、薬事規制、臨床試験、資金調達、エグジット戦略など）
- ・研究シーズをもとにしたワークショップ形式での事業案の作成
- ・サイトビジット（CiRA 発スタートアップ数社、製薬企業訪問など）
- ・日本文化探究（哲学的対話、文化施設訪問など）

■チューリッヒ大学側コンテンツ例

- ・アントレプレナーシップの基礎理論ワークショップ（未解決ニーズ、価値提案、市場競争分析など）
- ・スイスイノベーションエコシステムの交流・体験
- ・サイトビジット（トランスレーショナル研究施設、スイス製薬企業、スタートアップ訪問など）

【5 か年ロードマップ（2026～2030）】



【本件に関するお問い合わせ先】

京都大学成長戦略本部

E-mail：pr-iac@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp